

平成 30 年 6 月 21 日現在

機関番号：37113

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26870312

研究課題名(和文)性分化疾患当事者のライフコース研究 医療の介入による逸脱増幅の経験とその影響

研究課題名(英文)Lifecourse of Intersex/DSD-- the effect of medical intervention and enhancement of deviation to body

研究代表者

入江 恵子(Keiko, Irie)

九州国際大学・法学部・准教授

研究者番号：10636690

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はインターセックス/DSDについて、医療による身体への介入により、逸脱をより増幅させてしまうその過程が、個人の生活世界にどのような影響を与えているのかを明らかにするものである。ヨーロッパ在住の活動家への聞き取り調査により、「インターセックス」「DSD」「ジェンダー」などの名称への違和感が米国中心のインターセックス運動への「対抗運動」への参加動機となっていることが明らかになった。

研究成果の概要(英文)：This research depicts the lifecourse of Intersex/DSD (Disorders of Sex Development). I conducted the interview with person with Intersex/DSD conditions, mainly who lives and advocates intersex/DSD movements in Europe. As a Result, so-called 'counter-movement' against US-centered intersex movement was found. In conclusion, 'anti-US movement' was motivated by the feedback to the nomenclature of 'intersex' or 'DSD.' None of these nomenclatures were fitted to some countries or languages.

研究分野：医療社会学

キーワード：医療社会学 ジェンダー研究 逸脱研究 インターセックス 性分化疾患

1. 研究開始当初の背景

性分化疾患 (DSD: disorders of sex development) とは、インターセックスとしても知られる、「通常」の「男」「女」の解剖学的状態から外れる身体状態、症状を指す総称である。インターセックス/性分化疾患 (DSD) の当事者のほとんどが、性器の形成手術やホルモン治療などを受けている。治療行為を通じて、性分化疾患とされる状態が「完治」することはなく、生涯に渡っての定期的な医療的処置が必要となる場合がほとんどである。さらには、医療処置により症状や状態が以前の状態よりも「悪化」するケースが多く報告されており、身体感覚が失われたり、身体の違和感が継続する事例が報告されている (Chase, 1998 など)。これらは、いわば身体の「逸脱」した状態が以前よりもさらに「増幅」した状態と言え、「逸脱増幅の経験」として博士論文等で論じた。性分化疾患が一般的に知られるようになってからまだ日が浅いため、追跡調査のなさやその一枚岩的な内容について当事者からも批判の声があがっている (Fausuto-sterling, 2003 など)。それゆえ、本研究では、こうした性分化疾患に特有の逸脱増幅経験について、それらが発生したタイミングや影響、さらには詳細な過程に焦点を当て、複合的な視点 逸脱論、医療化と身体論、ジェンダー論の3つの論点から当事者のライフコースを明らかにするという着想を得た。

2. 研究の目的

本研究は先述した3つの視点を取り入れることにより、「構築/本質」の二分法に依拠することなく、当事者の経験を包括的にとらえようとするものであり、いわば「身体総合の社会学」を目指すものである。具体的には以下の通りである。

逸脱論：逸脱論の視点を取り込むことにより、通常のライフコース研究では明らかにできない、「逸脱の増幅」を中心として構築される性分化疾患当事者に特有の共通経験を明らかにする。具体的には、医療によってその身体状態や存在自体がさらに「逸脱」したものとして扱われるという経験が、当事者のこれまでの人生の様々な局面においてどのような影響を与えてきたのかを明らかにする。また同時に、今後の将来への展望など、当事者の人生のとらえ方を明らかにする。

医療化と身体論：当事者の個人的な経験

身体の経験と医師とのやりとりに着目し、当事者がどのように身体の違和感とそれに対する専門家による解釈や知識に折り合いをつけているのかを明らかにする。さらには、当事者にとっての「本質的な身体」と「社会的構築物」としての身体がどのように総合的に経験され、理解されているのかを明らかにする。

ジェンダー論：当事者がジェンダーをどのようにとらえているか、また、ジェンダーへ

の理解や態度はそのライフコース上にどのように位置づけられるものかが明らかになる。たとえば、性分化疾患をジェンダー論の流れで語ることへの反対/意見はどのようなきっかけから起こり、そうした態度はどのようなプロセスを経て、現在へ至っているかなどである。これにより、性分化疾患という、ジェンダーの二元論との関連でその正当性を問われた個人によるその定義が明らかになる。それにより、ジェンダー論が人に与える影響の一側面を明らかにする。

性分化疾患当事者のライフコースを多様な論点によって分析することは、当事者の経験の複層性を明らかにするだけではなく、その具体的内容と過程を明らかにするものであると考える。このようにして得られた結果は、社会において「逸脱」と認定され、「逸脱」として扱われることの影響、そしてその「逸脱」を自ら定義しなおし、周囲の社会と相互行為を行うために一部内面化して生きること、こうした逸脱者のライフコースにおける一連の〈逸脱・身体・ジェンダー観〉をめぐるダイナミクスを明らかにできると考える。こうした結果により、同じようなケースへ示唆を与えるだけではなく、隣接領域である医療社会学やマイノリティ研究へも新たな視座を提供することができると考えた。

3. 研究の方法

本研究は、前述した目的を達成するために以下の2つの研究方法を採用する。

(1) 分析枠組みの精緻化 (これまでの研究から得られた概念の発展、新しい概念の構築)。

当事者の個人レベル(身体)で経験される「医療化」について理論的構築をはかる。自らが経験する身体的違和感という経験を基軸に据え、理解や不信感といった葛藤を認識しながら専門家支配された知と向き合うさまをあきらかにする。

(2) 海外調査 (聞き取り調査、フィールド調査、資料収集)。これまでの調査データをふまえ、当事者の経験について聞き取り調査を行う。当事者団体の協力の下、米国、ヨーロッパにおいて聞き取り調査を行う。現地でも不定期に開催されているミーティングに参加し、個別に聞き取り調査を行う。それと同時に、当事者グループが開催するシンポジウム、講演会等に参加し、さらなるネットワークの構築を図る。

これらの2つの方法により、先述した3つの論点 逸脱論、医療化と身体論、ジェンダー論を展開した。

4. 研究成果

本研究は、インターセックス/性分化疾患当事者のライフコース研究として、医療による身体への介入の結果、逸脱が増幅する経験によって、当事者の生活世界がどのように影響を受け変容しているのかを明らかにした。

この目的において、共通して語られていた当事者運動への参加に着目した。運動参加している当事者とそのサポーターへの聞き取り調査により、既存のインターセックス運動とは異なる運動のあり方が模索されていることが明らかになった。具体的には、「インターセックス」「性分化疾患(DSD)」という専門用語自体に違和感を抱き、別の呼称を模索する動きがあることが明らかになった。さらには、「ジェンダー」という概念すら母国語では違和感を覚えるものであるとして、インターセックスを旧来のジェンダーの枠組みではなく、新しい概念としてとらえ直す試みがあることが明らかになった。このように、インターセックスであることが当事者の生活世界において様々な意味づけを行い、より広い文脈で自らを捉えなおす働きを促していることが明らかになった。

本研究を統括したのちの、今後の新たな研究テーマとしてこれまで米国中心で発展してきたインターセックス/性分化疾患(DSD)運動とは異なる動きとして、ヨーロッパにおいて特徴的な取り組みを行っているオーストリアの当事者活動参加者との新たなネットワーク構築を行った。8月に現地を訪れ、代表・創立者と面談し、今後、共同研究を行うこととなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

1. 入江恵子、『女性化される現代ヨガ：日本におけるブームとその変遷』、スポーツとジェンダー研究、13巻、平成27年、査読有

2. 入江恵子、『薬害HIV感染被害者同時者の身体の位相』、九州国際大学教養研究、23号2巻、平成27年、査読無

3. 入江恵子、『医療の介入による「逸脱増幅」の諸相——インターセックスと薬害HIVの事例から』、九州国際大学教養研究、23号3巻、平成27年、査読無

[学会発表](計 6 件)

1. Keiko Irie, “The structure of Intersex/DSD Discourse in Japan” EuroPSI (the European Network for Psychosocial Studies in Intersex/dsd), 平成29年9月

2. Keiko Irie, “Comparative study of the feedback to the nomenclature change of Intersex to DSD (Disorders of Sex Development)” PSA(Pacific Sociological Association), 平成29年4月

3. Keiko Irie, “Identity Politics and Bio-Politics: Intersex/DSD Movements in Japan and the U.S.” EuroPSI (the European Network for Psychosocial Studies in Intersex/dsd), 平成28年9月

4. Keiko Irie, “Medicalization and Nomenclature: Intersex and Disorders of Sex Development” NWSA (National Women’s Study Association), 平成26年11月

5. Keiko Irie, “From Stigma to Feminization: Transition of Modern Yoga in Japan” PSA (Pacific Sociological Association), 平成27年4月

6. 入江恵子、『日本における「現代」ヨガのジェンダー化——その誕生と社会的背景』日本スポーツとジェンダー学会、平成26年6月

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

入江 恵子 (IRIE Keiko)
九州国際大学・法学部・准教授

研究者番号：10636690

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()